



# 南条つ子

南条小学校だより

南条つ子は 進んで学ぶ子

R1.12.16 No.84

思いやりのある子

かいっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



## ○ 教育評論家 親野智可等先生（本名：杉山桂一さん）の言葉

### <その1>

もし、職場で誰かがコップを落として割ったら、あなたは「大丈夫？ けがはない？」と聞いて、コップのかげらを拾ってあげるでしょう。でも、もし家庭で子どもや夫、妻がコップを割ったら、「何やってるの！ 気をつけなきゃダメでしょ。」と言ってしまう人が多いのではないのでしょうか。

もし、職場の同僚が「企画書なんて、ああ、やる気が出ない。」と愚痴ったら、「面倒くさいよね。ホント、嫌になっちゃうよね。」と共感するでしょう。でも、子どもが「宿題なんて、ああ、やる気が出ない。」と愚痴ったら、「しっかりやらなきゃダメでしょ。」と門前払いする人が多いのではないのでしょうか。また、夫や妻が「仕事の書類が面倒くさくてたまらない。」と愚痴ったら、「仕事なんだからしょうがないでしょ！」と同様に門前払いする人が多いと思います。

もし、職場の誰かがパソコンをうまく使えなかったら、あなたは教えてあげるでしょう。たとえ、同じことを何度聞かれても、気持ちよく教えてあげるはずですが、子どもが勉強で分からないことがあって何度も同じことを聞いてきたら、「何回言ったら分かるの。さっき教えたでしょ。ちゃんと聞いてなきゃダメでしょ。」と言ってしまうかもしれません。

このように、私たちは職場の人間関係は大事にするのに、親子や夫婦の関係はそれほど大事にしていません。家族は、長い人生の大事な時間を共に過ごす極めて大事な人たちです。人生の喜びも悲しみも分け合って生きていく、かけがえのない同伴者です。中でも、親子関係は大事です。なぜなら、親子関係の善し悪しは、子どもに多大なる影響を与えるからです。

子どもは親の言葉から多大なる影響を受けます。親が「また〇〇してない。なんで〇〇しないの。ちゃんとやらなきゃダメでしょ。」などと否定的な言葉で叱っていると、子どもには数多くの弊害(他に悪い影響を与える物事)が出てきます。

**弊害1** 子どもは「自分はダメな子だ。」と感じて自己肯定感が持たなくなります。すると、勉強、運動、生活習慣など、何事においても「できるはずだ。頑張ろう。」と思えなくなり、向上心や努力する心が失われてしまいます。

**弊害2** 子どもは「親は自分のことをダメな子だと思っているみたいだ。もうこんなダメな自分は大切にされていないな。愛されていないんだ。」と感じてしまいます。そして、親の愛情を確かめるために、危険なことや反社会的なことをするようになります。それによって親が心配する姿を見て、「心配してくれている。まだ愛されている。よかった。」と感じたいのです。(これが愛情確認行動です。)

**弊害3** 親が否定的な言葉で叱ってばかりいると、子どももそういう否定的な言葉を身につけてしまいます。親が関西弁なら子どもも関西弁になり、親が東北弁なら子どもも東北弁にな

ります。同じように、親が否定的な言葉を多く使うと、子どもも否定的な言葉を多く使うようになります。否定的な言葉が多いと、いろいろな人間関係がうまくいかなくなります。

肯定的な言葉が多いと、周りの人から好かれて人間関係が良くなります。子どもが良い人間関係を築けるようにしてあげたいなら、親自身の言葉遣いを直すことから始める必要があります。一番大事なのは家族です。それなのに、私たちは家族をないがしろにしています。職場の人には、丁寧で肯定的で共感的な言葉を使い、家族に対しては、ぞんざいで否定的かつ非共感的な言葉を使っています。

悪気はないかもしれませんが、ちょっとした嫌な感情が、積もり積もって冷え切った人間関係となっていきます。家族なのに、親子なのに、他人以上に冷え切った人間関係になってしまっている例は、たくさんあります。すべて、ちょっとしたことの積み重ねによるものです。一番多いのは不愉快な言葉によるものです。

「親しき仲にも礼儀あり」ということわざをかみしめましょう。親しき家族にも礼儀あり。親しき親子にも礼儀あり。これからはもっと、家族関係と親子関係を大事にしましょう。一番大事な人たちを一番大事にしましょう。

### <その2>

例えば、お兄ちゃんが弟を泣かせて困るといとき、どうしたらいいのでしょうか？

こういう場合、親はお兄ちゃんが弟を泣かせているところを見つけて、「なんで、また弟を泣かせてるの！ なんでお兄ちゃんらしくできないの！」と叱ると思います。でも、このように叱ることで兄弟の仲をよくすることはできません。なぜなら、こういう言い方をされると恨みが残るからです。それに、叱られたお兄ちゃんの方は、「どうせ、オレは意地悪なお兄ちゃんだもんね」という自己認識を持つようになります。

ですから、叱るところからではなく、誉めるところから入ることが大切です。まず親が自分に言い聞かせます。「よし、誉めることで兄弟仲をよくしてやろう」「兄弟仲のことで取りあえず誉めよう」そう言い聞かせて、何日間か目を皿のようにして機会をうかがいます。すると、必ず誉められる機会がやってきます。例えば、出かけるときお兄ちゃんが弟の靴を出してくれたりとか、弟の落としたお箸を拾ってくれたりなどです。そこですかさず、「お兄ちゃん、優しいな。ありがとう」と誉めます。

兄弟仲の例を出しましたが、これは万事に言えることです。ポイントは「しつけないことは取りあえず誉める」「誉めるところから入る」ということです。これを日ごろから意識しててください。

## ○ 2学期保護者会（12/19 実施） 下校バス9：30

今週19日(木)、2学期の保護者会を行います。お忙しい中申し訳ありませんが、ご参加くださいますようお願いいたします。個人懇談では、担任よりお子様について、頑張ったこと、できるようになったこと、もう少し頑張ると良いなどということなど、具体的に話があるかと思えます。

良くなった点・頑張った点については、大いに誉めていただきたいと思います。自分がうれしいだけでなく、親も喜んでいいるということできさらに喜びが増すと思います。また、課題については、どの子も「今よりも良くなりたくい・できるようになりたい」という気持ちをもっていますので、決して頭ごなしに叱ることなく、今後も頑張ろうと思えるような意欲を高める言葉かけをお願いします。